

研究助成 平成24年度 報告書

財団法人 黒潮生物研究財団
理事長 深田 純子 殿

作成日のみ記入して下さい

作成日 平成25年 3月 13日
受領日 平成25年 月 日

貴財団の研究助成により、下記の成果を上げましたので報告いたします

助成者対象者氏名(ふりがな)	藤本 心太 (ふじもと しんた)
----------------	------------------

学生の方はこちらに記入してください

学校名	京都大学	学部 学科 講座 等	大学院理学研究科生物科学専攻動物学教室 海洋生物学学科
学 年	修士課程2回生	区 分	卒研 (修研)・博研・その他 ()
指導教官 氏 名	宮崎 勝己	指導教官の所属・職	京都大学フィールド科学教育研究センター・講師

一般の研究者の方はこちらに記入してください

所 属		職 名	
最終学歴		学位等	

研究課題名	四国黒潮流域沿岸の海産クマムシ相調査
-------	--------------------

助成を受けた研究内容について、学会等での発表、学術誌等への公表を行った場合には、下欄にその内容（講演の場合：学会名、期日、タイトル、発表者名等、著作の場合：著者、発行年月、タイトル、雑誌名等）を記入して下さい

該当なし

研究の内容(研究成果)報告書の作成要領

- ・研究成果をA4の用紙1枚にまとめて下さい。1枚に収まらないときはご相談下さい。
- ・言語は日本語とします
- ・1行目に研究課題名、2行目に研究の実施者名(助成対象者名に○印をつける)を記入してください
- ・以下は図表、テキスト等、自由にレイアウトして結構です
- ・報告書は、一太郎2013、花子2013、MS-Word 2010、MS-Excel 2010、MS-PowerPoint 2010等で表示可能なファイル、またはPDF形式、JPG形式等、一般的なフリーソフトで表示および印刷可能なファイルでお送り下さい。
- ・特殊なフォントを使用される場合は、埋め込んで下さい
- ・成果報告書は当財団のホームページ等に公表しますので、著作権やデータの取り扱い等には十分ご注意下さい
- ・報告書(この紙と成果報告書の2枚)は、出力したものを郵送した上で、ファイルを電子メールまたはCD等の媒体に納めてお送り下さい
- ・提出期限は平成25年3月15日とする

四国黒潮流域沿岸の海産クマムシ相調査

○藤本 心太（京都大学大学院理学研究科）

背景

クマムシ類（緩歩動物門）は、陸域・淡水域・海域の多様な環境に生息する体長 1 mm に満たない微小動物である。海産のものはクマムシ類の中でも特に小さく、多くは発達した爪や吸盤状の指といった付属肢末端の特殊化した構造で砂にしがみつき、砂の隙間に生息しているほか、海藻やフジツボなどからも見つかる。海産クマムシ類は、その系統的多様性の高さからクマムシ類全体の進化を考える上で重要であるにもかかわらず、分類学的研究をはじめとする基礎研究が乏しい。

目的

これまで海産クマムシ類の調査が行われてこなかった四国黒潮流域沿岸の海産クマムシ類の多様性を明らかにする。

材料と方法

愛媛県須ノ川海岸から高知県大岐海岸にかけての四国南西部の潮間帯・潮下帯で砂泥の採集を行った（2012年10月29日から11月3日）。潮間帯での採集はスコップを用い、潮下帯の採集は黒潮研究所の研究船でドレッジを用いた。採集した砂泥から、浸透圧ショック法により海産クマムシ類を抽出し、エタノールで固定・保存した。クマムシ類は、ホイヤー氏液もしくはFluoromount-Gに封入してプレパラートを作製し、微分干渉顕微鏡(Nikon ECLIPSE E800)を用いて形態学的観察を行い、同定した。

結果

本研究は四国における海産クマムシ類の初めての報告となる。1綱2目3科2亜科4属5種の海産クマムシ類が確認された。詳細について現在論文を執筆中であり、ここでの公表は控える。

考察と今後の展望

本調査によって、四国の海産クマムシ相の一端が明らかにされた。今回採集された5種は、四国の海産クマムシ相のごく一部にすぎない事は明白で、今後調査範囲・地点・環境を増やしていくことにより、種数は更に増えると考えられる。黒潮流域の海産クマムシ相を明らかにするため、今後も四国沿岸の調査を続けていく予定である。また採集された種の中には、筆者がこれまでに海産クマムシ相調査を行ってきた同じく黒潮流域の沖縄、紀伊半島、伊豆半島と共通の分類群が見出されており、これらについては今後、分子生物学的手法を用いた生物地理学的解析を行っていく。

謝辞

本研究のドレッジ採集に協力していただいた黒潮生物研究所の主任研究員・中地シュウ氏と研究員・小淵正美氏に謝意を表します。